

下阿井における

毛利藩奉行斬殺事件

永禄九年（一五六六）尼子氏が富田城を明け渡し毛利氏の軍門に下ると、毛利氏は富田城に城代天野隆重をおいたのはじめとし各地に家臣を配置した。上阿井の唐墨城には伊達因幡守信重を配した。

広島に城を構え、近世大名として成長しようとする毛利氏にとって奥出雲の鉄は貴重な原料であり資産であった。その為に各地に鉄奉行を置いた。下阿井村には永禄十一年（一五六八）に野津源左衛門が配され屋敷（今の下阿井藤原健氏宅附近）に住んでいた。

生来の性格の上に職権をかさに着て無理難題をふきかけ、わがままな振舞いが多かった。だが百姓達は「泣く子と地頭には勝てぬ」と泣き寝入りするしかなかった。この時、長谷川一門がひそかに寄り合って野津斬殺を計画し、岸本平兵衛宅にて食事をし、頃を見計らって野津を血祭りにあげてしまった。それは文禄二年（一五九四）のことであった。

その後、長谷川一門は一人を残して長谷川六兵衛ら十一人と岸本六平兵衛の計十二人が捕えられ極刑に処せられた。時は慶長十三年（一六〇八）であった。

村人たちはこの処刑された人達の為にひそかにお堂を建て、像をまつつて冥福を祈った。そのお堂が上阿井川西大上の天神社前の「大上のまわり堂」である。

中には願主長谷川助左衛門とした長谷川一門十一人の像がある。



長谷川六兵衛像



大上まわり堂



法山明王碑
伝 野津源左衛門塚